

平成 24 年度 健康診断結果の概説

I. 一般検査項目について

5) 血圧測定(J1-8-6)

受診者数: 677,422 人(男性 448,477 人、女性 228,945 人)

有所見者(収縮期血圧 140mmHg 以上、または拡張期血圧 90mmHg 以上の人、および健診時正常血圧者も含む降圧剤服用中の人): 117,932 人(男性 91,609 人、女性 26,323 人)

有所見率: 17.4%(男性 20.4%、女性 11.5%)

各年齢層とも男性が女性より高率で、男女とも年齢層が高くなるにつれ有所見率が上昇し、特に男性では 50 歳台前半に 30%を、50 歳台後半に 40%を、60 歳台後半には 50%をそれぞれ超えます。男女差は 10 歳台の 3.8%から 40 歳台前半には 9.4%となり、50 歳台前半には 15.1%、50 歳台後半の 16.3%をピークに減少し 70 歳代では受診数は少ないが男女差が 2.7 まで低下します。就労男性の身体的・精神的ストレスが一般に女性より大きく、加えて肥満者や喫煙者の割合も大きいことが影響しているのでしょう。

血圧の平均値(図表 J1-6-3(収縮期血圧)、図表 J1-6-4(拡張期血圧))は男女の最大、最小血圧とも年齢とともに上昇し、男女とも 60 歳台以降に最低血圧がやや下降するものの、総じて BMI や腹囲の年齢的推移と似た傾向を示しています。

年齢とともに血圧が上昇するのは或る程度は加齢現象ですが、不適切な生活習慣がそれ以上に血圧を押し上げていると思える人は非常に多く、これが高齢期での心血管病の発症を助長していると考えられます。職域中年男性に対する保健指導をさらに推進する必要があるでしょう。